

2020 年（令和 2 年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

2020 年（暦年）段ボール需要予測 14,500 百万㎡ 前年比 100.7%

2019 年の国内経済は、7-9 月（速報値）の実質 GDP 成長率が前期比年率で +0.2% と、海外経済の減速や自然災害、消費税増税対策による駆け込み需要の抑制等により小幅な伸びとなり、民間調査機関の直近の予測では 2019 年度の実質 GDP 伸長率は概ね +0.7% 前後となっている。

2019 年の段ボール需要は、一進一退の状況で推移し 1-10 月累計で 99.9% と前年並みの生産量となっており、1-12 月累計では、2018 年 12 月に当連合会が発表した予測前年比 101.3% を下回り、前年並みの 14,400 百万㎡（前年比 100.0%）程度に留まる見込みである。

2020 年度の国内経済は、東京オリンピック開催に伴う需要増が見込まれる一方で、年度後半はその反動や消費増税対策の終了等もあり、緩やかな成長ペースに留まるとみられており、民間調査機関による実質 GDP 成長率予測は概ね +0.5% 程度となっている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して 2020 年（暦年）の段ボール需要を 14,500 百万㎡（前年比 100.7%）と予測した。

期間別内訳は、1-3 月 100.5%、4-9 月 101.0%、10-12 月 100.5% と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比 41%）は個食化や調理時間の短縮化により冷凍食品や調理済み食品の需要が底堅く推移することに加え、オリンピックのインバウンド需要も期待され、1% 程度の伸びと予測。

「その他」（構成比 17%）は高付加価値製品の投入で衛生用品は高齢者向けが拡大、ペット関連用品も堅調に推移し 1% 程度の伸びと予測。

「青果物用」（構成比 10%）は作付面積の減少等マイナス要因はあるものの、前年、前々年の自然災害や天候不順からの回復が見込まれ、前年を若干上回る 0.5% 程度の伸びと予測。

「電気器具・機械器具用」（構成比 8%）についてはオリンピック開催によるテレ

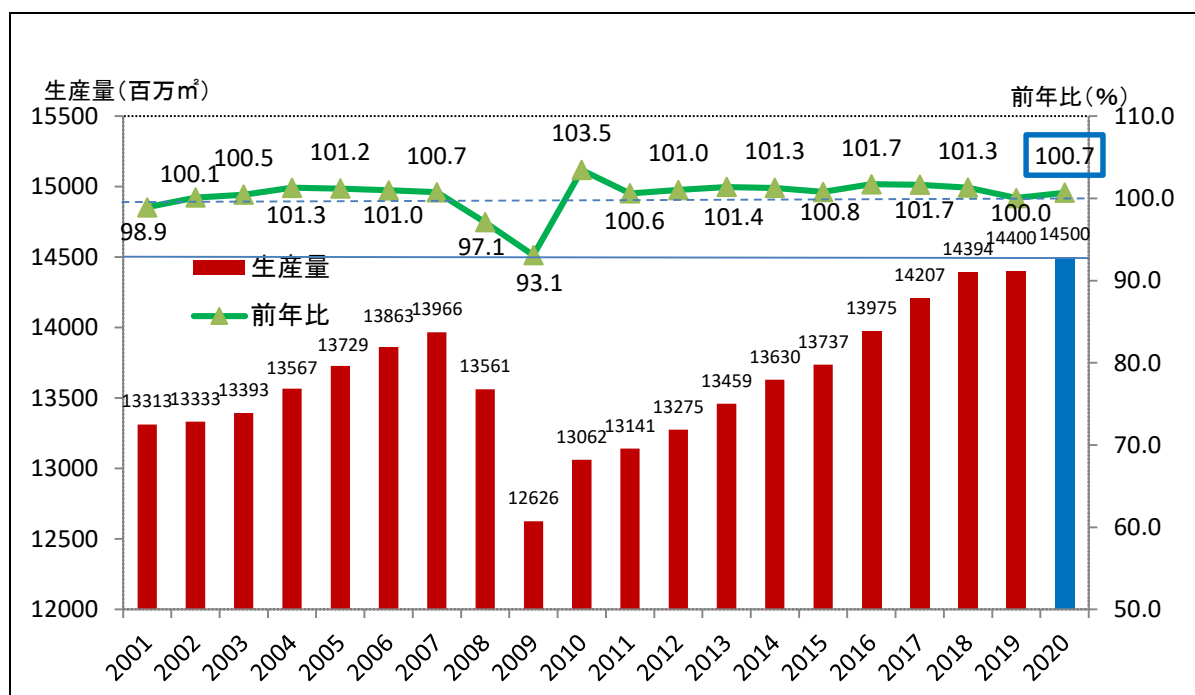
ビの買い替え需要や家電製品のインバウンド需要は限定的とみて前年並みと予測。

「薬品・洗剤・化粧品用」（構成比 6%）は高付加価値品・高機能品の需要が底堅く 0.5%程度前年を上回ると予測。

「通販・宅配・引越用」（構成比 5%）は消費税増税の影響に加え一部で脱段ボール化の動きもあり若干の鈍化を織込み 2%強の伸びに留まると予測。

以上

段ボール生産量推移



※2019年の10月は速報値、11月、12月は見込値。2020年は予測値。